

〈資料〉

久米島方言のアクセント資料 (3)

上野善道

1. はじめに

沖縄久米島方言のアクセント調査の中間報告として、今回は真謝方言を対象とし、その中の固有名詞（地名・人名）を前部要素とする生産的複合語のアクセント資料を提示する。話者は(1)の方である（音調記号は後述(3)を参照）。

(1) 久米島真謝（まじゃ，マー[ジャ]）仲原 健（たけし，通称けん）氏 昭和12年生まれ

2. 項目と表記

項目についての説明は、すでに本誌に、与論島麦屋東区方言（拙論2016）、喜界島小野津方言（拙論2017）、与論島叶方言（拙論2018）で取り上げているので省略するが、調査時間ならびに紙幅の関係で、取り上げる後部要素および項目数は均一ではない。

地名の中でも集落名項目は島ごとに変えており、今回は、当然、久米島の集落名を中心に設定した。久米島で興味深いのは、(2)のように隣り合う集落をまとめて呼ぶ名称が複合語としてあることである。「先島」を「宮古・八重山」[ミヤー]クイェー]マ、[ナー]クイェー]マと呼ぶ言い方も、もとよりある。ただ、(2)の第2例は、[ロー]ヒャージョー]ではないことから、前部要素の型が保持されず、より一体化したアクセントになっている。

(2) ジャー[ムヤラロ]ー（比嘉ジャー[ム]・謝名堂ヤラ[ロ]ー）、
ロー[ヒャージョ]ー（堂[ロー]・比屋定ヒャー[ジョ]ー）、
ジン[ジャマガ]イ（銭田ジン[ジャ]・真我里マガ[イ]）

「地名〇〇+の人」で「〇〇人」を表わす単語は、興味深い型の対立を示すので、できるだけ多く取り入れた。その中には、そこの人々を見下す用法も含まれているが、歴史と価値観の反映でもあるので、あえて一部を掲載した。

人名（名字）は、一字姓が多い奄美と違い、今回は沖縄なので「島袋、稲嶺、具志堅、仲宗根、下地、伊波」等を選ぶとともに、その対比上、本土名の「加藤、木村、佐藤」等も入れた。なお、「〇〇先生」は、学校で使う用語のため、どうしてもその人名は伝統的な沖縄の読み方ではなく、ある程度標準語化した語形になる。地名でも、「沖縄」はウチナーであっても、「沖縄県」という改まった新しい言い方ではオキナワケンになるのと同様である。

表記は、久米島方言の音声はカナで書けるので、音調表記と新古情報のみを(3)に示す。

(3) [: 上昇,] : 下降,] が2つある場合 : 2回下がる。

<n>：新，<o>：古，<m>：稀，<x>：その語形使わず，(OK)：これで確か。確認済み。

3. アクセント特徴

注目すべきは、**1音節2モーラ語**の地名に(4)の3種類の対立があることである。

(4) [オ]ー，[オ]ーガ(奥武)，[ロー]，[ロー]ガ(堂=宇江城)，ト[ー]，ト[ー]ガ(唐=中国)

以下，それぞれ，[オ]ー，[ロー]，ト[ー]と表わす。それらにクトゥ[バ(言葉)]を付けて複合語にすると(5)になる。

(5) [オ]ークトゥ()バ；[ロー]クトゥ[バ]；ト[ー]クトゥ[バ]

前部要素は元の型の区別を保ったまま(ト[ー]については後述)，クトゥ[バ]がークトゥ[バ]と交替して続く。前部要素に下降があっても，後部要素の2度目の下降も生ずる。ただし，時に2度目の下降ははっきりしなくなることがあり，括弧に入れて()で示した。

これまでも，拙論(2019)には[チー](血)，キ[ー](木)などが多数あり，[○]ー型も

(6) [マ]ー(どこ)，[キ]ー(今日)，[クイ]ー(杭，声)，[ヌ]ー(なぜ)，[メ]ー(前)，[ボ]ー(棒)，[ル]ー(体，槽)，[ワ]ー(豚)

が得られていたものの，同じ条件下での複合語が作りにくかった。それが地名に3つ揃って見つかったことにより，(5)の対立の有り様が明瞭になった。なお，[タイ](2人)に対立する型として，一般語彙に[ツ]イ(1人)，[ユ]イ(～のせい)もある。

特殊拍を含む**2音節3モーラ語**は，(7)のそれぞれの最初に今回の固有名詞語彙(後部要素を含む)を掲げ，セミコロン後にこれまで知られていた語例(拙論2019)を示す。

(7) カ[トー](加藤)，サ[トー](佐藤)，チ[ホー](地方)，リョ[コー](旅行)；ウ[ケー](お粥)，マ[ヤー](猫)

フル[ー](古)，ワカ[ー](若)；イチユ[ー](糸)，キヌ[ー](昨日)，クル[ー](黒)，サケ[ー](境)，サタ[ー](砂糖)，シル[ー](白)，チチュ[ー](月)，ヌリ[ー](喉)，タレ[ー](盥)，ニゲ[ー](願い)

ー(該当語例なし)；[アカー](赤)，[カッター](鯉)

キカ[イ](喜界)，マガ[イ](真我里)，フク[イ](福井)；アマ[イ](余り)，クス[イ](薬)，トゥス[イ](年寄り)，ネガ[イ](願い)，ハカ[イ](秤)，ヒカ[イ](光)，ヒザ[イ](左)，ヒル[イ](稲妻)

レ[モン]* (レモン)；ム[ミン]¹(木綿)(右上の*は，紙幅の関係で資料を割愛した印)ヨロ[ン](与論)；<n>カバ[ン](鞆)

1 ウ[ケー]とム[ミン]の音調はウケ[ー]，ムミ[ン]と極めて紛れやすいが，慎重に観察をした結果である。ちなみに，マ[ヤー](猫)とヌリ[ー](喉)は数回確認したが，一貫して区別されている。ただし，ウ[ケー]，ム[ミン]がそれを前部要素とする複合語になると，ウケー[メ]ー(お粥米)，ムミン[ナ]ー(木綿糸，縄)，ムミン[イチユ]ー(木綿糸，細い)，ムミン[バナ]グシ(木綿花節，古典民謡)と第4モーラから上昇する。なお精査が必要かもしれない。

ニ[ホ]ン*(日本)；ー

[コー]チ(高知), [イエー]マ(八重山); [カー]ラ(井戸), [クー]リ(氷), [コー]ジ(麴), [ター]チ(2つ), [チー]バ(糸切り歯, 八重歯), [ミー]チ(3つ), [ムー]チ(6つ), [ヤー]チ(8つ), [ユー]チ(4つ)

ー(該当語例なし); [ティ]ーチ(1つ)

[タイ]ラ(平良); [ムイ]カ(6日)

ー(該当語例なし); [コン]ジ(虹)

○[○イ]と[○]イ○の例は出ていないが, ○[○ー]と○○[ー], ○[○ン]と○○[ン], [○ー]○と[○]ー○は区別されていることが一層はっきりした。[アカー]は[カタ]チなど[○○]○の変異型と見ても, 2音節3モーラ語には少なくとも4種類, ニ[ホ]ンも含めると, 5種類の対立がある体系となる。

そして, (7)の中の最終特殊拍が高くなる型を前部要素とする複合語は(8)のようになる。

(8) ワカー[センセ]イ; キカイ[クトゥ]バ, マガイ[クトゥ]バ, ヨロン[クトゥ]バ

これから, ワカ[ー], キカ[イ], マガ[イ], ヨロ[ン]は, 本来は第4モーラから上昇する型であるが, 単独では低平調が許されないためにこの型で実現しているものと認められる。

ただし, (7)の「福井」が複合語において(9)のように振る舞うことが注意を引く。

(9) フク[イクトゥ]バ, フク[イガ]ス, フク[イダイガ]ク

キカ[イ], マガ[イ]と同一条件で比較できる複合語は「○○言葉」1例しかないものの, (9)を見る限り, フク[イ]は本来第3モーラに上昇をもつ型で, (8)とは異なると見られる。

ここで参考になるのが, 4モーラ語のオラン[ダとアメ[リカの振る舞いである。両者は本来は同じく第3モーラから上昇するものであるが, その第3モーラが重音節の従属部(特殊拍, モーラ音素)に当たり, かつその後には別のモーラがその単語の一部として続く場合は, 第4モーラに上昇が移ると考えられる。(7)の単独形キカ[イ], マガ[イ](さらには, ヨロ[ン], ワカ[ー]), 及び助詞付きのキカ[イ]ガ等は, 第3モーラが語末だったために移動をしないものと見る。複合語のキカイ[ジ]マ等では第4モーラに移動している。

こう考えると, 「福井」は音韻的には3音節3モーラ語で/huku[ˈi/ (イは非特殊拍)であり, 2音節3モーラ語の/kika[i, maga[i/ (イは特殊拍)とは異なることになる²。その場合, 両者の違いはカナでは, 例えば「フクイ」に対して「キカイ」とするなどの工夫が要るが, 今回はこだわらないことにする。また, (7)の中には「福井」と同じ振る舞いをする単語が含まれている可能性も出てくるが(特に, リに由来するイの場合), それらを前部要素とする複合語の調査に俟つこととする。

ただし, そう考えると, 同じく特殊拍終わりでありながら, キカ[イ]ガに対してトー[ガ

² フットを考え, (フク)(イ)に対して(キ)(カイ), (マ)(ガイ), (ヨ)(ロン)として, そのフット構造の差に帰する案も考えられるが, 「福井, 喜界, 真我里, 与論」は当て字表記の可能性があり(たとえば, 「真我里」は「曲」であろう), 決め手は得られない。

(唐)の助詞の振る舞いの差が問題になる。後者は、元々第3モーラで上昇する型だと見ればよい。2音節2モーラ語のハ[ナ(花)、ア[メ(雨)などのCV[CV型は、助詞付きでもすべてハナ[ガなどのCVCV[ガとなる、すなわち、可能な限り最初の2モーラを低くする性質があり、本来CVCV[なのであるが、低平調は許されないために単独形ではCV[CVで出ているに過ぎないと見る。従って、CV[CV]ガはありえず、ト[-]ガもありえないのである。ジ[マ[(儀間)とジマ[クトゥ]バ、シ[マ[(島)とシマ[クトゥ]バも同じ関係になっている。

その点から見て、ニ[ホ]ン(日本)も気になる形である。これはヤマ[トゥ]に代わる新しい借用語に違いない。型の対立数を考える際に、「ニ[ホ]ンを含めると」と条件を付けたのはそのためである。長音に終わるカ[トー](加藤)なども沖縄にない名字であるが、こちらはマ[ヤー](猫)があるので問題ないはずである。レ[モン]も間違いないと考える。

4. 複合語アクセント

地名・人名の**前部要素**の振る舞いは、既述のように、単独形の語中の上昇位置を保持して下降は無関係というのが原則で、(7)の語末が上昇するもののみ、1モーラ後ろにずれる。一方、[カゴ]シマ、[コー]チ(高知)、[ミエ](三重)等の語頭2モーラが高い型は、その型を保持する。語頭の高低の区別は複合語でも保たれるが、稀に両型のゆれや併用が見られる。

後部要素としては次の(10)の項目を調べた([○○]○型を聞き漏らしたのは私のミス)。

- (10) [ガッ]コー(学校)、[ケン]キュー*(研究)、[シン]ブン(新聞)、[セー]ヒン*(製品)、[セン]セイ(先生)、[ミン]ヨー(民謡)、ギン[コー](銀行)、シン[ポー](新報)、タイ[ム]ス(タイムス)、ダイ[ガク]*(大学)；ミヤ[ギ](土産)、クトゥ[バ](言葉)、ブン[クワ](文化)、リョー[リ](料理)、チ[ホー](地方)、リョ[コー](旅行)、レ[モン]*(レモン)；[ガス]*(ガス)、[ケン](県)；[チュ](人)

長い**4モーラ語**の例(11)から見ていく。「先生」を除き、他は[ケン]キューでもギン[コー]でもダイ[ガク]でも、元の型を問わず、次末下降型の-○○○]○の形で続く。前部要素が語頭2モーラが高い型の場合、後部の-○○○]○と合わせて下降は2回生ずるのが原則である。

- (11) オラン[ダミンヨ]ー、アメ[リカミンヨ]ー、[カゴ]シマミンヨ]ー；

ヒロ[シマギンコ]ー、トー[ホクギンコ]ー、[ナゴ]ヤギンコ]ー、[ミエ]ギンコ()ー
(東北はトー[ホク]。九州キュー[シュ]ーもキュー[シューギンコ]ーで同じになる)

ホッカイ[ドーダイガ]ク、リユー[キューダイガ]ク、[コー]チダイガ]ク；ニー[ガタダイガ]ク～[ニー]ガタダイガ]ク(単独形はニー[ガタ]だが、[コー]べと共に併用)

これらの各々最後の例から、さらには[キタ]ニホン(北日本)と[キタ]ニホンギンコ]ーなどの関係から、[○○]-型は、その上昇も下降も含めた全体が式音調を形成する要素であると見る。ただし、[トー]キョーだが、トー[キョーダイガ]クのみである。これは、規

則で作り出したものではなく、固有名詞として丸ごと覚えたものであろう。

ところが、[セン]セイはこれらとは異なる。後部が次末下降の-センセ]イとなる点では同じであるが、前部要素が、上昇のみならず下降まで含めてその型が完全に保存されるのである。(12)の前部要素は、そのままナカ[ソネ]、コー[チョ]ーなどである。その意味で、前部要素は独立的であるが、一方で後部要素は-センセ]イと交替しており、半ば独立、半ば融合という中間的な性格を持っていることになる。

- (12) [グシ]ケンセンセ]イ、ナカ[ソネ]センセ]イ、コー[チョ]ーセンセ]イ、
 [ウチ]マセンセ]イ、ガナ[ハ]センセ]イ、カ[トー]センセ]イ、
 [ヒガ]センセ]イ、イ[ハ]センセ]イ

ただし、この特徴は前部が人名や役職名の場合のみに見られるもので、通常の属性を表わす「男、女、若、年寄り～」では、ウナ[グセンセ]イ(女先生)、トゥシ[ユイセンセ]イ(年寄り先生)と一般型で出る。(12)は固有名詞の特殊性に起因するということになる。

なお、人名は初頭形態素でアクセントが決まる傾向が見られ、かなり予測可能である。

- (13) [シン]ガキ(新垣)、[シン]ザト(新里)、[シン]ジョー(新城)；
 ナカ[ソネ](仲宗根)、ナカ[ハラ](仲原)、ナカ[ムラ](中村)；
 マエ[ヒラ](真栄平、前平)、マエ[ザト](前里)；
 ヤマ[ガー](山川)、ヤマ[ザト](山里)、ヤマ[シロ]、ヤマ[グシ]ク(山城)；
 ヨシ[ナガ](吉永)、ヨシ[ハラ](吉原)

ただし、(14)の3例は例外となっている。

- (14) [アラ]カキ(新垣) ↔ アラ[グシ]ク(新城)；
 タマ[シロ]、タマ[グシ]ク(玉城) ↔ [タマ]キ(玉城)；
 ミヤ[ザト](宮里)、ミヤ[ギ]、ミヤ[シロ]、ミヤ[グシ]ク(宮城) ↔ [ミヤ]ヒラ
 (宮平)

次は**後部3モーラ語**に移る。チ[ホー](地方)を除くミヤ[ギ](土産)、リョ[コー](旅行)等々は、後部要素になると、すべて-ミヤ]ギ、-リョ]コ-と次末に下降がくる型に交替する。前部要素の振る舞いも含め、4モーラ語の主要型と同一である。これが無標の規則である。

特徴的なのはチ[ホー](地方)である。前部の型がそのまま保存されるのみならず、後部要素は下降のない-チホーになる。(15)である。前部要素はこのまま元の型が推定できる。

- (15) [オー]サカチホー、オキ[ナワ]チホー、[コー]チチホー、イワ[テ]チホー、[チバ]
 チホー

ただし、ホッカイ[ドーチホ]ー、キョー[トチホ]ー、特に広域ではトー[ホクチホ]ー、[チュー]ブチホ]ー等も記録してあり、これらの無標パターンも現われることがある。

後部2モーラ語の[ガス]は、主要タイプと同じで、前部の上昇位置を生かしつつ、-ガ]スになる。ただし、前が2モーラの[チバ]、[ギフ]、[シガ]、[ミエ]、[ナラ]、[サガ](県名はすべてこの型のみ)に続くときは、[〇〇]ガスとなって2度目の下降は生じない。

残る[ケン](県)は、(16)のように、すべて前部要素の型をそのまま生かして-ケンとなる。ただし、オキ[ナワ]に対してオキ[ナワケン]だけがその例外になっている。

(16) アオ[モリ]ケン, [オカ]ヤマケン, アキ[タ]ケン, [コー]チケン, [サガ]ケン

なお、(9)の例にフク[イ]チホー, フク[イ]ケンの事実を挙げなかったのは、上記の「地方」と「県」の振る舞いから、フク[イ]の性質を見極める根拠にはならないためである。

最後は後部1モーラ語の[チュ](人)である。これは、これまでにはない行動を取る。

(17) ナカン[ラカ]リ(仲村渠) → ナカン[ラカリン]チュ

オキ[エラ]ブ(沖永良部) → オキ[エラブン]チュ

キカイ[ジ]マ(喜界島) → キカイ[ジマン]チュ

ウラン[ダ](オランダ) → ウラン[ダン]チュ, ウラン[ダンチュ]ー

アメ[リカ] → アメ[リカン]チュ, アメ[リカンチュ]ー

ウチ[ナー]※(沖縄) → ウチ[ナーン]チュ

※ウチ[ナ]ーも記録するも同じ結果に。

ヤマ[トゥ](大和, 日本) → ヤマ[トゥン]チュ, ヤマ[トゥンチュ]ー

ナー[ハ](那覇) → ナー[ハン]チュ

マガ[イ](真我里) → マガ[イン]チュ

ヨロ[ン](与論) → ヨロン[チュ

シ[マ](島) → シ[マン]チュ

ジ[マ](儀間) → ジマン[チュ

ト[ー](唐) → トーン[チュ, トー[ヌン]チュ, トー[ヌチュ]ー

[ウィー]グシク(宇江城) → [ウィー]グシクンチュ

[カゴ]シマ(鹿児島) → [カゴ]シマンチュ

[ナー]ク(宮古) → [ナー]クンチュ, ナー[クンチュ]ー

([ミヤー]クは略)

[ナゼ](名瀬) → [ナゼン]チュ

[オ]ー(奥武) → [オ]ーンチュ

この(17)の冒頭からマガ[イ]までは、すべて語中の上昇位置を保持しつつ-ン]チュを付けることで出来上がる。一部は-ンチュ]ーともなる(より感情的か。併用の有無に関する詳細未詳)。その過程では、ウチ[ナーン]チュや、ナカ[ルマ]イ(仲泊)に対するナカ[ルマイン]チュなどの超重音節も生じている。また、ヤマ[グシ]ク(山城), カネ[グシ]ク(兼城)の2項目は、一般型のヤマ[グシクン]チュ型の他に、元の下降位置を保つヤマ[グシ]クンチュ型も可だという。

それに続くヨロ[ン], ジ[マ], ト[ー]については、上昇位置が移動して-ン[チュ]になる。マガ[イ]とヨロ[ン]で振る舞いが違うのは、前者は第3モーラを含む「イン」で音節を形成できる(音節の切り直し)のに対して、後者はそれができないためである(「ン」も不可能)。前部要素が同一型のシ[マ]とジ[マ]で複合語の型が異なるのは、前者のシ[マ]

ン]チュが琉球方言共通語として使われている一種の借用語であるのに対して、「儀間」のジマン[チュの方が地元の発音に基づいて作り出される形であるためであろう。

後半の、語頭から高く始まる型については、前部要素の型を保持するが、2モーラ語の[ナゼ]にーンチュが続くと音節構造が変わり、それに応じて第3モーラまで高い[ナゼン]チュになる。[ロー](堂)に対する[ローン]チュも同様で、超重音節を形成している。[ナー]クからナー[クンチュ]ーへの交替は、ウラン[ダンチュ]ー、アメ[リカンチュ]ーから見て、ーンチュ]ーの方が表現性が高いことと連動している可能性がある。[オ]ーにはそのままーンチュが続く。

[参考文献]

- 上野善道 (2016) 「与論島方言のアクセント資料(3)」『南島文化』38: 159-178.
 上野善道 (2017) 「喜界島小野津方言の地名複合語アクセント資料」『南島文化』39: 85-102.
 上野善道 (2018) 「与論島方言のアクセント資料 (4)」『南島文化』40: 177-188.
 上野善道 (2019) 「久米島方言の体言のアクセント資料」『琉球の方言』43: 131-172.
 上野善道 (2020) 「久米島方言の体言のアクセント資料 —— 那覇語彙(1) ——」『琉球の方言』44: 189-241.

[付記] 話者の仲原健氏の長時間に及ぶご協力に厚く御礼を申し上げる。査読者からの指摘で入力ミスを正し得た。本稿は JSPS 科学研究費 19H00530 (代表者: 窪菌晴夫) による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」(プロジェクトリーダー: 窪菌晴夫)、並びに「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー: 木部暢子) の研究成果も兼ねる。

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
オランダ民謡	オラン[ダミンヨ]ー	オランダ	オラン[ダ]	民謡	[ミン]ヨー
アメリカ民謡	アメ[リカミンヨ]ー	アメリカ	アメ[リカ]	民謡	[ミン]ヨー
鹿児島民謡	[カゴ]シマミンヨ]ー	鹿児島	[カゴ]シマ]	民謡	[ミン]ヨー
広島民謡	ヒロ[シマミンヨ]ー	広島	ヒロ[シマ]	民謡	[ミン]ヨー
オランダ名物	オラン[ダメーブ]ツ	オランダ	オラン[ダ]	名物	[メー]ブツ
アメリカ名物	アメ[リカメーブ]ツ	アメリカ	アメ[リカ]	名物	[メー]ブツ
鹿児島名物	[カゴ]シマメーブ]ツ	鹿児島	[カゴ]シマ	名物	[メー]ブツ
広島名物	ヒロ[シマメーブ]ツ	広島	ヒロ[シマ]	名物	[メー]ブツ
久米島名物	クミ[ジマメーブ]ツ	久米島	クミ[ジマ]	名物	[メー]ブツ
沖縄名物	オキ[ナワメーブ]ツ	沖縄	オキ[ナワ]	名物	[メー]ブツ
那覇名物	ナー[ハメーブ]ツ	那覇	ナー[ハ]	名物	[メー]ブツ
宮古名物	<n>[ミヤ]コメーブ]ツ, [ミヤー]クメーブ]ツ	宮古	<n>[ミヤ]コ, [ミヤー]ク,[ナー]ク	名物	[メー]ブツ
石垣名物	イシ[ガキメーブ]ツ	石垣	イシ[ガ]キ(屋号に イシ[ジャチ]あり)	名物	[メー]ブツ
与那国名物	[ユナ]グニメーブ]ツ	与那国	[ユナ]グニ	名物	[メー]ブツ
与論名物	ヨロン[メーブ]ツ	与論	ヨロ[ン], ヨロン[ジ]マ	名物	[メー]ブツ
沖永良部名物	オキ[エラブメーブ]ツ	沖永良部	オキ[エラ]ブ Cf.伊良部はイラ[ブ]	名物	[メー]ブツ
徳之島名物	トク[ノシマメーブ]ツ	徳之島	トク[ノシ]マ	名物	[メー]ブツ
大島名物	オー[シマメーブ]ツ, アマ[ミオーシマメーブ]ツ	大島	オー[シマ], アマ[ミオーシ]マ	名物	[メー]ブツ
名瀬名物	[ナゼ]メーブ]ツ	名瀬	[ナゼ]	名物	[メー]ブツ
喜界名物	キカイ[メーブ]ツ, キカイ[ジマメーブ]ツ	喜界	キカ[イ], キカイ[ジ]マ	名物	[メー]ブツ
東京名物	[トー]キョーメーブ]ツ	東京	[トー]キョー	名物	[メー]ブツ
八重山名物	<n>[ヤエ]ヤマメーブ]ツ, [イェー]マメーブ]ツ	八重山	<n>[ヤエ]ヤマ, [イェー]マ	名物	[メー]ブツ
久米島学校	クミ[ジマガッコ]ー	久米島	クミ[ジマ]	学校	[ガッ]コー
久米島小学校	クミ[ジマショーガッコ]ー	久米島	クミ[ジマ]	小学校	ショー[ガッコ]ー
久米島中学校	クミ[ジマチューガッコ]ー	久米島	クミ[ジマ]	中学校	チュー[ガッコ]ー
久米島高等学校	クミ[ジマコートガッコ]ー	久米島	クミ[ジマ]	高等学校	コート[ガッコ]ー
久米島高校	クミ[ジマコー]コー, クミ[ジマコー]ー	久米島	クミ[ジマ]	高校	[コー]コー
奄美新聞	アマ[ミシン]ブン	奄美	アマ[ミ]	新聞	[シン]ブン,<n>シン [ブン](以下略)
大島新聞	オー[シマシン]ブン	大島	オー[シマ]	新聞	[シン]ブン
奄美大島新聞	アマ[ミオーシマシン]ブン	奄美大島	アマ[ミオーシ]マ	新聞	[シン]ブン
南日本新聞	[ミナ]ミニホンシン]ブン	南日本	[ミナ]ミニホン	新聞	[シン]ブン
東京新聞	[トー]キョーシン]ブン	東京	[トー]キョー	新聞	[シン]ブン
京都新聞	キョー[トシン]ブン	京都	キョー[ト]	新聞	[シン]ブン
九州新聞	キュー[シュシン]ブン	九州	キュー[シュ]ー	新聞	[シン]ブン
名古屋新聞	[ナゴ]ヤシン]ブン	名古屋	[ナゴ]ヤ	新聞	[シン]ブン

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
産経新聞	サン[ケーシンプ]ン	産経	サン[ケー]	新聞	[シン]ブン
読売新聞	ヨミ[ウリシンプ]ン	読売	ヨミ[ウリ]	新聞	[シン]ブン
毎日新聞	マイ[ニチシンプ]ン	毎日	マイ[ニチ]	新聞	[シン]ブン
朝日新聞	アサ[ヒシンプ]ン	朝日	アサ[ヒ]	新聞	[シン]ブン
四国新聞	シコ[クシンプ]ン	四国	シコ[ク]	新聞	[シン]ブン
三重新聞	[ミエ]シンプ]ン	三重	[ミエ]	新聞	[シン]ブン
滋賀新聞	[シガ]シンプ]ン	滋賀	[シガ]	新聞	[シン]ブン
東日本新聞	[ヒガ]シニホンシンプ]ン	東日本	[ヒガ]シニホン	新聞	[シン]ブン
古新聞	フル[シンプ]ン	古	フル[-(OK)]	新聞	[シン]ブン
沖縄タイムス	オキ[ナワタイム]ス	沖縄	オキ[ナワ]	タイムス	タイ[ム]ス
琉球新報	リユー[キューシンポ]-	琉球	リユー[キュー]-	新報	シン[ポ]-
鹿児島銀行	[カゴ]シマギンコ]-	鹿児島	[カゴ]シマ	銀行	ギン[コ]-
広島銀行	ヒロ[シマギンコ]-	広島	ヒロ[シマ]	銀行	ギン[コ]-
東京銀行	[ト-]キョーギンコ]-	東京	[ト-]キョー	銀行	ギン[コ]-
大阪銀行	[オ-]サカギンコ]-	大阪	[オ-]サカ	銀行	ギン[コ]-
九州銀行	キュー[シュ-ギンコ]-	九州	キュー[シュ]-	銀行	ギン[コ]-
名古屋銀行	[ナゴ]ヤギンコ]-	名古屋	[ナゴ]ヤ	銀行	ギン[コ]-
北海道銀行	ホッカイ[ド-ギンコ]-	北海道	ホッカイ[ド]-	銀行	ギン[コ]-
北日本銀行	[キタ]ニホンギン]コ-	北日本	[キタ]ニホン	銀行	ギン[コ]-
三重銀行	[ミエ]ギンコ()]-	三重	[ミエ]	銀行	ギン[コ]-
男先生	ウキ[ガセンセ]イ	男	ウキ[ガ]	先生	[セン]セイ
女先生	ウナ[グセンセ]イ	女	ウナ[グ]	先生	[セン]セイ
若先生	ワカ-[センセ]イ(OK)	若	ワカ[-](OK)	先生	[セン]セイ
年寄り先生	トウシ[ユイセンセ]イ	年寄り	トウシ[ユイ]	先生	[セン]セイ
教頭先生	[キョー]ト-センセ]イ	教頭	[キョー]ト-	先生	[セン]セイ
校長先生	コー[チョ-]センセ]イ(OK)	校長	コー[チョ-]	先生	[セン]セイ
島袋先生	シマ[ブク](ロ)センセ]イ	島袋	シマ[ブク](ロ)	先生	[セン]セイ
新垣先生	[アラ]カキセンセ]イ, [シン]ガキセンセ]イ	新垣	[アラ]カキ, [シン]ガキ	先生	[セン]セイ
糸数先生	イト[カズ]センセ]イ	糸数	イト[カズ]	先生	[セン]セイ
稲嶺先生	イナ[ミネ]センセ]イ	稲嶺	イナ[ミネ]	先生	[セン]セイ
上原先生	[ウエ]ハラセンセ]イ	上原	[ウエ]ハラ	先生	[セン]セイ
大城先生	オー[シロ]センセ]イ	大城	オー[シロ]	先生	[セン]セイ
金城先生	[キン]ジョーセンセ]イ	金城	[キン]ジョー, カネ/ナ[グシ]ク	先生	[セン]セイ
具志堅先生	[グシ]ケンセンセ]イ	具志堅	[グシ]ケン	先生	[セン]セイ
国吉先生	[クニ]ヨシセンセ]イ	国吉	[クニ]ヨシ	先生	[セン]セイ
崎村先生	[サキ]ムラセンセ]イ	崎村	[サキ]ムラ, Cf. [サキ ン]ラカリ(崎村渠)	先生	[セン]セイ
佐久川先生	サク[ガー]センセ]イ(OK)	佐久川	サク[ガー](OK)	先生	[セン]セイ
新里先生	[シン]サトセンセ]イ	新里	[シン]サト	先生	[セン]セイ
新城先生	[シン]ジョーセンセ]イ	新城	[シン]ジョー, アラ[グシ]ク	先生	[セン]セイ

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
高江洲先生	タカ[エス]センセ]イ	高江洲	タカ[エス]	先生	[セン]セイ
高橋先生	タカ[ハシ]センセ]イ	高橋	タカ[ハシ]	先生	[セン]セイ
玉城先生	[タマ]キセンセ]イ, タマ[シロ]センセ]イ	玉城	[タマ]キタマ[シロ], タマ[グシ]ク(OK)	先生	[セン]セイ
仲宗根先生	ナカ[ソネ]センセ]イ	仲宗根	ナカ[ソネ]	先生	[セン]セイ
仲原先生	ナカ[ハラ]センセ]イ	仲原	ナカ[ハラ]	先生	[セン]セイ
中村先生	ナカ[ムラ]センセ]イ	中村	ナカ[ムラ], Cf. ナカン [ラカ]リ(仲村渠)	先生	[セン]セイ
前里先生	マエ[ザト]センセ]イ	前里	<n>マエ[ザト](戦後)	先生	[セン]セイ
真栄平先生	マエ[ヒラ]センセ]イ	真栄平	マエ[ヒラ]	先生	[セン]セイ
又吉先生	[マタ]ヨシセンセ]イ	又吉	[マタ]ヨシ	先生	[セン]セイ
宮里先生	ミヤ[ザト]センセ]イ	宮里	ミヤ[ザト](OK)	先生	[セン]セイ
宮平先生	[ミヤ]ヒラセンセ]イ	宮平	[ミヤ]ヒラ(OK)	先生	[セン]セイ
本永先生	モト[ナガ]センセ]イ	本永	モト[ナガ]	先生	[セン]セイ
盛吉先生	[モリ]ヨシセンセ]イ	盛吉	[モリ]ヨシ	先生	[セン]セイ
安村先生	ヤス[ムラ]センセ]イ	安村	ヤス[ムラ]	先生	[セン]セイ
山川先生	ヤマ[ガー]センセ]イ	山川	ヤマ[ガー](OK)	先生	[セン]セイ
山里先生	ヤマ[ザト]センセ]イ	山里	ヤマ[ザト]	先生	[セン]セイ
山城先生	ヤマ[シロ]センセ]イ	山城	ヤマ[シロ], ヤマ[グシ]ク	先生	[セン]セイ
吉永先生	ヨシ[ナガ]センセ]イ	吉永	ヨシ[ナガ]	先生	[セン]セイ
吉原先生	ヨシ[ハラ]センセ]イ	吉原	ヨシ[ハラ]	先生	[セン]セイ
与那嶺先生	ヨナ[ミネ]センセ]イ	与那嶺	ヨナ[ミネ]	先生	[セン]セイ
渡辺先生	ワタ[ナベ]センセ]イ	渡辺	ワタ[ナベ]	先生	[セン]セイ
池間先生	イケ[マ]センセ]イ	池間	イケ[マ]	先生	[セン]セイ
内間先生	[ウチ]マセンセ]イ	内間	[ウチ]マ	先生	[セン]セイ
大田先生	オー[タ]センセ]イ	大田	オー[タ]	先生	[セン]セイ
我那覇先生	ガナ[ハ]センセ]イ	我那覇	ガナ[ハ]	先生	[セン]セイ
下地先生	[シモ]ジセンセ]イ	下地	[シモ]ジ	先生	[セン]セイ
平良先生	[タイ]ラセンセ]イ	平良	[タイ]ラ	先生	[セン]セイ
高良先生	[タカ]ラセンセ]イ	高良	[タカ]ラ	先生	[セン]セイ
田里先生	タサ[ト]センセ]イ	田里	タサ[ト]	先生	[セン]セイ
多和田先生	タワ[ダ]センセ]イ	多和田	タワ[ダ]	先生	[セン]セイ
津波古先生	ツハ[コ]センセ]イ	津波古	ツハ[コ]	先生	[セン]セイ
照屋先生	テル[ヤ]センセ]イ	照屋	テル[ヤ]	先生	[セン]セイ
平田先生	[ヒラ]タセンセ]イ	平田	[ヒラ]タ	先生	[セン]セイ
宮城先生	ミヤ[ギ]センセ]イ	宮城	ミヤ[ギ],ミヤ[シロ], ミヤ[グシ]ク	先生	[セン]セイ
吉田先生	ヨシ[ダ]センセ]イ	吉田	ヨシ[ダ]	先生	[セン]セイ
加藤先生	カ[ト]センセ]イ	加藤	カ[ト]	先生	[セン]セイ
木村先生	キム[ラ]センセ]イ	木村	キム[ラ]	先生	[セン]セイ
佐藤先生	サ[ト]センセ]イ	佐藤	サ[ト]	先生	[セン]セイ
柴田先生	[シバ]タセンセ]イ	柴田	[シバ]タ,シバ[タ]	先生	[セン]セイ

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
鈴木先生	スズ[キ]センセ]イ	鈴木	スズ[キ]	先生	[セン]セイ
田中先生	タナ[カ]センセ]イ	田中	タナ[カ]	先生	[セン]セイ
山田先生	ヤマ[ダ]センセ]イ	山田	ヤマ[ダ]	先生	[セン]セイ
伊波先生	イ[ハ]センセ]イ	伊波	イ[ハ]	先生	[セン]セイ
儀間先生	ギ[マ]センセ]イ	儀間	ギ[マ]	先生	[セン]セイ
比嘉先生	[ヒガ]センセ]イ	比嘉	[ヒガ]	先生	[セン]セイ
与儀先生	[ヨギ]センセ]イ	与儀	[ヨギ]	先生	[セン]セイ
オランダ土産	オラン[ダミヤ]ギ	オランダ	オラン[ダ]	土産	ミヤ[ギ]
アメリカ土産	アメ[リカミヤ]ギ	アメリカ	アメ[リカ]	土産	ミヤ[ギ]
鹿児島土産	[カゴ]シマミヤギ	鹿児島	[カゴ]シマ	土産	ミヤ[ギ]
広島土産	ヒロ[シマミヤ]ギ	広島	ヒロ[シマ]	土産	ミヤ[ギ]
オランダ文化	オラン[ダブン]クウ	オランダ	オラン[ダ]	文化	ブン[クウ]
アメリカ文化	アメ[リカブン]クウ	アメリカ	アメ[リカ]	文化	ブン[クウ]
鹿児島文化	[カゴ]シマブン]クウ	鹿児島	[カゴ]シマ	文化	ブン[クウ]
広島文化	ヒロ[シマブン]クウ	広島	ヒロ[シマ]	文化	ブン[クウ]
オランダ料理	オラン[ダリョー]リ	オランダ	オラン[ダ]	料理	リョー[リ]
アメリカ料理	アメ[リカリョー]リ	アメリカ	アメ[リカ]	料理	リョー[リ]
鹿児島料理	[カゴ]シマリョー]リ	鹿児島	[カゴ]シマ	料理	リョー[リ]
広島料理	ヒロ[シマリョー]リ	広島	ヒロ[シマ]	料理	リョー[リ]
オランダ言葉	オラン[ダクトゥ]バ	オランダ	オラン[ダ]	言葉	クトゥ[バ]
アメリカ言葉	アメ[リカクトゥ]バ	アメリカ	アメ[リカ]	言葉	クトゥ[バ]
鹿児島言葉	[カゴ]シマクトゥ]バ	鹿児島	[カゴ]シマ	言葉	クトゥ[バ]
広島言葉	ヒロ[シマクトゥ]バ	広島	ヒロ[シマ]	言葉	クトゥ[バ]
男言葉	ウキ[ガクトゥ]バ	男	ウキ[ガ]	言葉	クトゥ[バ]
女言葉	ウナ[ダクトゥ]バ	女	ウナ[ダ]	言葉	クトゥ[バ]
島言葉	シマ[クトゥ]バ(OK)	島	シ[マ]	言葉	クトゥ[バ]
大和言葉 (本土の)	ヤマ[トクトゥ]バ	大和	ヤマ[ト]	言葉	クトゥ[バ]
久米島言葉	クミ[ジマクトゥ]バ	久米島	クミ[ジマ]	言葉	クトゥ[バ]
那覇言葉	ナー[ハクトゥ]バ	那覇	ナー[ハ]	言葉	クトゥ[バ]
宮古言葉	[ミヤ]コクトゥ]バ, [ミヤー]ククトゥ]バ	宮古	[ミヤ]コ,[ミヤー]ク	言葉	クトゥ[バ]
石垣言葉	イシ[ガキクトゥ]バ	石垣	イシ[ガキ]	言葉	クトゥ[バ]
与那国言葉	[ユナ]グニクトゥ]バ	与那国	[ユナ]グニ	言葉	クトゥ[バ]
与論言葉	ヨロン[クトゥ]バ(OK)	与論	ヨロ[ン]	言葉	クトゥ[バ]
沖永良部言葉	オキ[エラブクトゥ]バ	沖永良部	オキ[エラ]ブ	言葉	クトゥ[バ]
徳之島言葉	トク[ノシマクトゥ]バ	徳之島	トク[ノシ]マ	言葉	クトゥ[バ]
大島言葉	オー[シマクトゥ]バ	大島	オー[シマ]	言葉	クトゥ[バ]
名瀬言葉	[ナゼ]クトゥ]バ	名瀬	[ナゼ]	言葉	クトゥ[バ]
喜界言葉	キカイ[クトゥ]バ, キカイ[ジマクトゥ]バ	喜界	キカ[イ], キカイ[ジ]マ	言葉	クトゥ[バ]
京言葉	<m>[キョー]クトゥ]バ	京	[キョー]	言葉	クトゥ[バ]

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
八重山言葉	[ヤエ]ヤマクトゥバ, [イエー]マクトゥバ	八重山	<n>[ヤエ]ヤマ, [イエー]マ	言葉	クトゥ[バ]
西銘言葉	[ニシ]ミクトゥバ	西銘	[ニシ]ミ	言葉	クトゥ[バ]
大田言葉	ウフ[タクトゥ]バ	大田	ウフ[タ]	言葉	クトゥ[バ]
嘉手刈言葉	カリ[カルクトゥ]バ	嘉手刈	カリ[カル]	言葉	クトゥ[バ]
儀間言葉	ジマ[クトゥ]バ(OK)	儀間	ジ[マ]((OK)	言葉	クトゥ[バ]
山城言葉	ヤマ[グシククトゥ]バ(OK)	山城	ヤマ[グシ]ク	言葉	クトゥ[バ]
阿嘉言葉	アー[カクトゥ]バ(OK)	阿嘉	アー[カ]	言葉	クトゥ[バ]
宇江城言葉	[ウエ]グシククトゥ]バ, [ウィー]グシククトゥ]バ, [ロー]クトゥ]バ(OK)	宇江城	[ウエ]グシク, <o>[ウィー]グシク, [ロー](堂)とも。	言葉	クトゥ[バ]
宇根言葉	[ウチャ]ムクトゥ]バ	宇根	[ウチャ]ム	言葉	クトゥ[バ]
上江洲言葉	ウエ[ズクトゥ]バ, ウィー[ジクトゥ]バ	上江洲	ウエ[ズ], ウィー[ジ]	言葉	クトゥ[バ]
奥武言葉	[オ]ークトゥ()バ(OK). Cf. オー[ハクトゥ]バ	奥武	[オ]ー(OK). 奥に無 人のオー[ハ]ジマあり.	言葉	クトゥ[バ]
大原言葉	オー[ハラクトゥ]バ, [カイ]クンクトゥ]バ	大原	オー[ハラ], [カイ]クン(開墾)	言葉	クトゥ[バ]
兼城言葉	カニ[グシククトゥ]バ	兼城	カニ[グシ]ク	言葉	クトゥ[バ]
具志川言葉	グシ[チャークトゥ]バ	具志川	グシ[チャー]	言葉	クトゥ[バ]
島尻言葉	シマ[ジリクトゥ]バ	島尻	シマ[ジリ]	言葉	クトゥ[バ]
謝名堂言葉	ヤラ[ロークトゥ]バ	謝名堂	ヤラ[ロー]	言葉	クトゥ[バ]
銭田言葉	ジン[ジャクトゥ]バ	銭田	ジン[ジャ]	言葉	クトゥ[バ]
鳥島言葉	トゥイ[シマクトゥ]バ	鳥島	トゥイ[シマ]	言葉	クトゥ[バ]
仲地言葉	ナカ[チクトゥ]バ	仲地	ナカ[チ]	言葉	クトゥ[バ]
仲泊言葉	ナカ[ルマイクトゥ]バ	仲泊	ナカ[ルマ]イ	言葉	クトゥ[バ]
仲村渠言葉	ナカン[ラカリクトゥ]バ	仲村渠	ナカン[ラカ]リ	言葉	クトゥ[バ]
比嘉言葉	ジャー[ムクトゥ]バ(OK)	比嘉	ジャー[ム](謝武)	言葉	クトゥ[バ]
比屋定言葉	ヒヤー[ジョークトゥ]バ	比屋定	ヒヤー[ジョ]ー	言葉	クトゥ[バ]
真我里言葉	マガイ[クトゥ]バ	真我里	マガ[イ](曲)	言葉	クトゥ[バ]
真謝言葉	マー[ジャクトゥ]バ	真謝	マー[ジャ]	言葉	クトゥ[バ]
山里言葉	ヤマ[ザトクトゥ]バ	山里	ヤマ[ザト]	言葉	クトゥ[バ]
仲里言葉	ナカ[ザトクトゥ]バ	仲里	ナカ[ザト]	言葉	クトゥ[バ]
唐言葉	<m>トー[クトゥ]バ(OK)	唐(中国)	ト[ー](OK)	言葉	クトゥ[バ]
オランダ旅行	オラン[ダリヨコ]ー	オランダ	オラン[ダ]	旅行	リヨ[コー]
アメリカ旅行	アメ[リカリヨコ]ー	アメリカ	アメ[リカ]	旅行	リヨ[コー]
鹿児島旅行	[カゴ]シマリヨコ()ー	鹿児島	[カゴ]シマ	旅行	リヨ[コー]
広島旅行	ヒロ[シマリヨコ]ー	広島	ヒロ[シマ]	旅行	リヨ[コー]
北海道地方	ホッカイ[ドーチホ]ー(OK)	北海道	ホッカイ[ド]ー	地方	チ[ホー]
青森地方	アオ[モリ]チホー	青森	アオ[モリ]	地方	チ[ホー]
秋田地方	アキ[タ]チホー	秋田	アキ[タ]	地方	チ[ホー]
岩手地方	イワ[テ]チホー	岩手	イワ[テ]	地方	チ[ホー]
山形地方	ヤマ[ガタ]チホー	山形	ヤマ[ガタ]	地方	チ[ホー]

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
宮城地方	ミヤ[ギ]チホー	宮城	ミヤ[ギ]	地方	チ[ホー]
福島地方	フク[シマ]チホー	福島	フク[シマ]	地方	チ[ホー]
茨城地方	イバ[ラギ]チホー	茨城	イバ[ラギ]	地方	チ[ホー]
栃木地方	トチ[ギ]チホー	栃木	トチ[ギ]	地方	チ[ホー]
群馬地方	グン[マ]チホー	群馬	グン[マ]	地方	チ[ホー]
埼玉地方	サイ[タマ]チホー	埼玉	サイ[タマ]	地方	チ[ホー]
東京地方	[トー]キョーチホー	東京	[トー]キョー	地方	チ[ホー]
千葉地方	[チバ]チホー	千葉	[チバ]	地方	チ[ホー]
神奈川地方	カナ[ガワ]チホー	神奈川	カナ[ガワ]	地方	チ[ホー]
新潟地方	ニー[ガタ]チホー	新潟	ニー[ガタ]	地方	チ[ホー]
長野地方	ナガ[ノ]チホー	長野	ナガ[ノ]	地方	チ[ホー]
山梨地方	ヤマ[ナシ]チホー	山梨	ヤマ[ナシ]	地方	チ[ホー]
静岡地方	シズ[オカ]チホー	静岡	シズ[オカ]	地方	チ[ホー]
富山地方	トヤ[マ]チホー	富山	トヤ[マ]	地方	チ[ホー]
岐阜地方	[ギフ]チホー	岐阜	[ギフ]	地方	チ[ホー]
愛知地方	アイ[チ]チホー	愛知	アイ[チ]	地方	チ[ホー]
石川地方	[イシ]カワチホー	石川	[イシ]カワ	地方	チ[ホー]
福井地方	フク[イ]チホー	福井	フク[イ]	地方	チ[ホー]
滋賀地方	[シガ]チホー	滋賀	[シガ]	地方	チ[ホー]
三重地方	[ミエ]チホー	三重	[ミエ]	地方	チ[ホー]
奈良地方	[ナラ]チホー	奈良	[ナラ]	地方	チ[ホー]
京都地方	キョー[トチホ]ー	京都	キョー[ト]	地方	チ[ホー]
大阪地方	[オー]サカチホー	大阪	[オー]サカ	地方	チ[ホー]
和歌山地方	ワカ[ヤマ]チホー	和歌山	ワカ[ヤマ]	地方	チ[ホー]
兵庫地方	ヒョー[ゴ]チホー	兵庫	ヒョー[ゴ]	地方	チ[ホー]
鳥取地方	トツ[トリ]チホー	鳥取	トツ[トリ]	地方	チ[ホー]
岡山地方	[オカ]ヤマチホー	岡山	[オカ]ヤマ	地方	チ[ホー]
島根地方	シマ[ネ]チホー	島根	シマ[ネ]	地方	チ[ホー]
広島地方	ヒロ[シマ]チホー	広島	ヒロ[シマ]	地方	チ[ホー]
山口地方	ヤマ[グチ]チホー	山口	ヤマ[グチ]	地方	チ[ホー]
香川地方	カガ[ワ]チホー	香川	カガ[ワ]	地方	チ[ホー]
徳島地方	トク[シマ]チホー	徳島	トク[シマ]	地方	チ[ホー]
愛媛地方	エヒ[メ]チホー	愛媛	エヒ[メ]	地方	チ[ホー]
高知地方	[コー]チチホー	高知	[コー]チ	地方	チ[ホー]
福岡地方	フク[オカ]チホー	福岡	フク[オカ]	地方	チ[ホー]
大分地方	オー[イタ]チホー	大分	オー[イタ]	地方	チ[ホー]
宮崎地方	ミヤ[ザキ]チホー	宮崎	ミヤ[ザキ]	地方	チ[ホー]
熊本地方	クマ[モト]チホー	熊本	クマ[モト]	地方	チ[ホー]
鹿児島地方	[カゴ]シマチホー	鹿児島	[カゴ]シマ	地方	チ[ホー]
佐賀地方	[サガ]チホー	佐賀	[サガ]	地方	チ[ホー]
長崎地方	[ナガ]サキチホー	長崎	[ナガ]サキ	地方	チ[ホー]
沖縄地方	オキ[ナワ]チホー	沖縄	オキ[ナワ]	地方	チ[ホー]

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
北海道	ホッカイ[ド]ー	北海道	ホッカイ[ド]ー	道	[ド]ー
青森県	アオ[モリ]ケン	青森	アオ[モリ]	県	[ケン]
秋田県	アキ[タ]ケン	秋田	アキ[タ]	県	[ケン]
岩手県	イワ[テ]ケン	岩手	イワ[テ]	県	[ケン]
山形県	ヤマ[ガタ]ケン	山形	ヤマ[ガタ]	県	[ケン]
宮城県	ミヤ[ギ]ケン	宮城	ミヤ[ギ]	県	[ケン]
福島県	フク[シマ]ケン	福島	フク[シマ]	県	[ケン]
茨城県	イバ[ラギ]ケン	茨城	イバ[ラギ]	県	[ケン]
栃木県	トチ[ギ]ケン	栃木	トチ[ギ]	県	[ケン]
群馬県	グン[マ]ケン	群馬	グン[マ]	県	[ケン]
埼玉県	サイ[タマ]ケン	埼玉	サイ[タマ]	県	[ケン]
東京都	[ト]ーキョート	東京	[ト]ーキョー	都	[ト]
千葉県	[チバ]ケン	千葉	[チバ]	県	[ケン]
神奈川県	カナ[ガワ]ケン	神奈川	カナ[ガワ]	県	[ケン]
新潟県	ニー[ガタ]ケン	新潟	ニー[ガタ]	県	[ケン]
長野県	ナガ[ノ]ケン	長野	ナガ[ノ]	県	[ケン]
山梨県	ヤマ[ナシ]ケン	山梨	ヤマ[ナシ]	県	[ケン]
静岡県	シズ[オカ]ケン	静岡	シズ[オカ]	県	[ケン]
富山県	トヤ[マ]ケン	富山	トヤ[マ]	県	[ケン]
岐阜県	[ギフ]ケン	岐阜	[ギフ]	県	[ケン]
愛知県	アイ[チ]ケン	愛知	アイ[チ]	県	[ケン]
石川県	[イシ]カワケン	石川	[イシ]カワ	県	[ケン]
福井県	フク[イ]ケン	福井	フク[イ]	県	[ケン]
滋賀県	[シガ]ケン	滋賀	[シガ]	県	[ケン]
三重県	[ミエ]ケン	三重	[ミエ]	県	[ケン]
奈良県	[ナラ]ケン	奈良	[ナラ]	県	[ケン]
京都府	キョー[トフ]	京都	キョー[ト]	府	[フ]
大阪府	[オー]サカフ	大阪	[オー]サカ	府	[フ]
和歌山県	ワカ[ヤマ]ケン	和歌山	ワカ[ヤマ]	県	[ケン]
兵庫県	ヒョー[ゴ]ケン	兵庫	ヒョー[ゴ]	県	[ケン]
鳥取県	トツ[トリ]ケン	鳥取	トツ[トリ]	県	[ケン]
岡山県	[オカ]ヤマケン	岡山	[オカ]ヤマ	県	[ケン]
島根県	シマ[ネ]ケン	島根	シマ[ネ]	県	[ケン]
広島県	ヒロ[シマ]ケン	広島	ヒロ[シマ]	県	[ケン]
山口県	ヤマ[グチ]ケン	山口	ヤマ[グチ]	県	[ケン]
香川県	カガ[ワ]ケン	香川	カガ[ワ]	県	[ケン]
徳島県	トク[シマ]ケン	徳島	トク[シマ]	県	[ケン]
愛媛県	エヒ[メ]ケン	愛媛	エヒ[メ]	県	[ケン]
高知県	[コー]チケン	高知	[コー]チ	県	[ケン]
福岡県	フク[オカ]ケン	福岡	フク[オカ]	県	[ケン]
大分県	オー[イタ]ケン	大分	オー[イタ]	県	[ケン]
宮崎県	ミヤ[ザキ]ケン	宮崎	ミヤ[ザキ]	県	[ケン]

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
熊本県	クマ[モト]ケン	熊本	クマ[モト]	県	[ケン]
鹿児島県	[カゴ]シマケン	鹿児島	[カゴ]シマ	県	[ケン]
佐賀県	[サガ]ケン	佐賀	[サガ]	県	[ケン]
長崎県	[ナガ]サキケン	長崎	[ナガ]サキ	県	[ケン]
沖縄県	オキ[ナワ]ン(OK) (<x>ウチナーケン)	沖縄	オキ[ナワ], ウチ[ナ]ー	県	[ケン]
オランダの人	ウラン[ダン]チュ, ウラン[ダンチュ]ー(やや 下に見て),ウラン[ダ]ー (下に見て)	オランダ	<o>ウラン[ダ]	人	[チュ]
アメリカの人	アメ[リカ]ンチュ, アメ[リカ]ンチュ]ー(やや 下に),アメ[リカ]ー(下)	アメリカ	アメ[リカ]	人	[チュ]
鹿児島の人	[カゴ]シマンチュ	鹿児島	[カゴ]シマ	人	[チュ]
広島の人	ヒロ[シマン]チュ, ヒロ[シマンチュ]ー	広島	ヒロ[シマ]	人	[チュ]
島の人	シ[マン]チュ	島	シ[マ]	人	[チュ]
大和の人 (本土の)	ヤマ[トゥン]チュ, ヤマ[トゥンチュ]ー	大和	ヤマ[トゥ]	人	[チュ]
久米島の人	クミ[ジマン]チュ, クミ[ジマンチュ]ー	久米島	クミ[ジマ]	人	[チュ]
沖縄の人	ウチ[ナ]ンチュ	沖縄	オキ[ナワ], ウチ[ナ]ー	人	[チュ]
那覇の人	ナー[ハン]チュ	那覇	ナー[ハ]	人	[チュ]
宮古の人	[ミヤー]クンチュ, <o>[ナー]クンチュ, ナー[クンチュ]ー	宮古	[ミヤー]ク, <o>[ナー]ク	人	[チュ]
石垣の人	イシ[ガキン]チュ, <o>イシ[ジャチン]チュ	石垣	イシ[ガキ]	人	[チュ]
与那国の人	[ユナ]グニンチュ	与那国	[ユナ]グニ	人	[チュ]
与論の人	ヨロン[チュ], ヨロン[ジマン]チュ(OK)	与論	ヨロ[ン], ヨロン[ジ]マ	人	[チュ]
沖永良部の人	オキ[エラブ]ンチュ	沖永良部	オキ[エラ]ブ	人	[チュ]
徳之島の人	トク[ノシマン]チュ	徳之島	トク[ノシ]マ	人	[チュ]
大島の人	オー[シマン]チュ	大島	オー[シマ]	人	[チュ]
名瀬の人	[ナゼン]チュ	名瀬	[ナゼ]	人	[チュ]
喜界の人	キカイ[ジマン]チュ	喜界	キカイ[イ], キカイ[ジ]マ	人	[チュ]
東京の人	[トー]キョーンチュ, ヤマ[トゥン]チュ, ヤマ[トゥンチュ]ー	東京	[トー]キョー	人	[チュ]
八重山の人	[イエー]マンチュ	八重山	[ヤエ]ヤマ, [イエー]マ	人	[チュ]
西銘の人	[ニシ]ミンチュ	西銘	[ニシ]ミ	人	[チュ]
大田の人	ウフ[タン]チュ	大田	ウフ[タ]	人	[チュ]
嘉手刈の人	カリ[カルン]チュ	嘉手刈	カリ[カル]	人	[チュ]

複合語	真謝方言アクセント	前部要素	前部アクセント	後部要素	後部アクセント
儀間の人	ジマン[チュ(OK)]	儀間	ジ[マ[人	[チュ]
山城の人	ヤマ[グシク]チュ, ヤマ[グシ]クンチュとも	山城	ヤマ[グシ]ク	人	[チュ]
阿嘉の人	アー[カン]チュ	阿嘉	アー[カ]	人	[チュ]
宇江城の人	[ウィー]グシクンチュ, [ローン]チュ(OK)	宇江城	[ウエ]グシク, <o>[ウィー]グシク, [ロー](堂)とも.	人	[チュ]
宇根の人	[ウチャ]ムンチュ	宇根	[ウチャ]ム	人	[チュ]
上江洲の人	ウィー[ジン]チュ	上江洲	ウエ[ズ],ウィー[ジ]	人	[チュ]
奥武の人	[オ]ーンチュ(OK)	奥武	[オ]ー(OK)	人	[チュ]
大原の人	オー[ハラ]ンチュ	大原	オー[ハラ]	人	[チュ]
兼城の人	カニ[グシク]チュ, カニ[グシ]クンチュとも	兼城	カニ[グシ]ク	人	[チュ]
具志川の人	グシ[チャーン]チュ	具志川	グシ[チャ]ー(OK)	人	[チュ]
島尻の人	シマ[ジリ]ンチュ	島尻	シマ[ジリ]	人	[チュ]
謝名堂の人	ヤラ[ローン]チュ(OK)	謝名堂	ヤラ[ロ]ー(OK)	人	[チュ]
銭田の人	ジン[ジャン]チュ	銭田	ジン[ジャ]	人	[チュ]
鳥島の人	トゥイ[シマン]チュ	鳥島	トゥイ[シマ]	人	[チュ]
仲地の人	ナカ[チン]チュ	仲地	ナカ[チ]	人	[チュ]
仲泊の人	ナカ[ルマイン]チュ	仲泊	ナカ[ルマ]イ	人	[チュ]
仲村渠の人	ナカン[ラカリン]チュ	仲村渠	ナカン[ラカ]リ	人	[チュ]
比嘉の人	ジャー[ムン]チュ	比嘉	ジャー[ム](謝武)	人	[チュ]
比屋定の人	ヒヤー[ジョーン]チュ, <o>ハー[ジョーン]チュ	比屋定	ヒヤー[ジョ]ー	人	[チュ]
真我里の人	マガ[イン]チュ(OK)	真我里	マガ[イ](曲)	人	[チュ]
真謝の人	マー[ジャン]チュ, <n>マジャン[チュ]	真謝	マー[ジャ], <n>マ[ジャ]	人	[チュ]
山里の人	ヤマ[ザトゥン]チュ	山里	ヤマ[ザトゥ]	人	[チュ]
仲里の人	ナカ[ザトゥン]チュ	仲里	ナカ[ザトゥ]	人	[チュ]
唐の人	トーン[チュ,トー[ヌン]チュ, トー[ヌチュ]ー(この屋号あり)	唐(中国)	ト[ー[人	[チュ]